

編 集 後 記

大学財務経営研究第6号が完成しました。

今回は、外部から10本の論文が寄稿されました。いずれも高等教育に関わる重要課題が取り上げられており、誠に示唆に富んだ内容となっております。

特に海外からは、5編の研究成果をお寄せ頂きました。鮑威氏は、平成20年度に当センターの外国人客員研究員として赴任された方であり、中国の大学の銀行融資利用の実態を政策的背景はもとより、機関特性との相関の実証分析を含めてまとめて頂いています。また、アルベルト・アマラル、サイモン・マージンソン、エバンシア・シュミットの3氏は、平成21年1月26日に当センターが開催しました国際シンポジウム「高等教育システムの改革とその結果」において、欧州、オーストラリア・大洋州諸国、北欧諸国の大学改革についてそれぞれご発表頂いた内容をもとにご寄稿を頂きました。新公共経営（New Public Management）的なガバナンス構造の導入と課題、イノベーション拠点としての高等教育機関の再編、高等教育における国際戦略、国家戦略および機関戦略の差異と補完など、日本の高等教育セクターの今後を考える上でも重要な論考が示されております。さらに、テネシー州高等教育委員会の柳浦猛氏からは、IR（Institutional Research）分野での豊富なご経験を生かして、マクロデータを駆使した米国の高等教育における家計負担の実態分析をご報告頂きました。

国立大学法人も第一期中期目標期間の最終年度を迎え、今後のマクロ的な制度の方向性および個別大学のミクロの戦略方針を検討する際に、ご参考になる情報をご提供できたのではないかと存じております。

今後とも、当センター研究部の研究成果はもとより、国内外の質の高い研究成果の発信源として、「大学財務経営研究」を刊行して参りたいと存じます。変わらぬご支援のほど、何卒よろしくお願いを申し上げます。

なお、本紀要中に掲載されている論文に存する意見等は、当センターおよび執筆者の所属・関係する組織の公式見解ではないことを、申し添えさせていただきます。

「大学財務経営研究」編集委員会